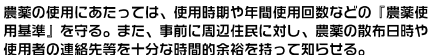


りんご病害虫防除暦



主な栽培管理

② ペフラン液剤、アリエッティC水和剤は最後に調合する。

割の空びん、空袋は適正な方法で処理する。

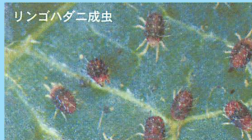
収 穫
収穫適期を見極める。また、収穫したりんごは速やかに冷蔵施設に入庫する。

殺ダニ剤の適用表						
薬剤名	IRACコード	倍率	1,000 g当たり 量量	農業使用基準		リンゴハダニ
				使用時期	年間使用回数	
マンシ組乳剤	—	200	5 g	展葉期 (発芽後3週間まで)	—	○ ○ ○ ○ ○
サンマイト水和剤	21A	1,500	667 g	収穫21日前まで	1回	○
バロックフロアブル	10B	2,000	500mL	14	2回以内	○
カネマイトフロアブル	20B	1,000	1.2	7	1	○
オマイト水和剤	12C	750	1.34kg	3	1	○
コロマイト乳剤	6	1,000	1.2	前日	1	○
ダニシラバフロアブル☆	25A	1,000	1.2	前日	2	○
スターマイトフロアブル☆	25A	2,000	500mL	前日	1	○
ダニコングフロアブル☆	25B	2,000	500mL	前日	1	○
エコマイト顆粒水和剤	23	2,000	500 g	前日	1	○
ダニオテフロアブル	33	2,000	500mL	前日	1	○

☆ダニシラバ、スターマイト、ダニコングは合わせて年1回の使用とする。

(注釋) 1. サンマイトは落花直後に使用しない。
2. ダニオテは銅剤(有機銅剤及びオキシラン)と混用しない。銅剤を散布した後はダニオテを使用しない。ダニオテ散布後に銅剤を使用する場合は、10日以上散布前を待てる。
3. コロマイトは6月下旬までの使用を避ける。
4. オマイトは7月下旬までの使用を避ける。また、高温、干ばつ、日照不足等の条件下では、黄変落葉を助長する恐れがある。

物理性悪化事例：アリエッティを最後に調査し合わない場合




散布する農薬の農業使用基準 (収穫前日数・年間使用回数) をよく確認し、発生基準に達しないよう注意する。

収穫前の規制に注意

- F R A Cコード及びI R A Cコードは、同系統の農業を同じ記号で分類したものであり、このコードを参考に、異なる系統の農業でのローテーション散布を行い、耐性及び抵抗性回避に努める。
- 使用残りの薬液や散布器具の洗浄液を池や川などに流入させない。

薬剤名	FRAC コード	倍率	農薬使用基準		腐らん 病	輪紋病	傷口の 癒合促進
			使用時期	年毎使用回数			
フランクストスプレー	19	一	剪定時及び 病患部削り取り直後	5回以内	○		
バッチレート	M1	原液	剪定時及び 病患部削り取り直後	3	○		○
トップジンMオルバース	1	原液	剪定時及び 病患部削り取り直後	3	○		
トップジンMベース	1	原液	剪定時及び 病患部削り取り直後	3		○	

が発生する可能性があるため、高濃度、高温時の散

北グリーン・リサーチセンター ☎39-5050